

修士論文（研究報告書）要旨

論文（報告書）タイトル：「M&A と技術統合に関する研究」

学籍番号：AM20002

氏名：MENG YANGYANG

指導教授：伊藤 善夫教授

【論文（報告書）の構成】

はじめに

第1章 問題意識の提示と研究目的

第2章 先行研究

第3章 資源の特性とイノベーション創出

第4章 事例研究

第5章 仮説の構築

第6章 仮説の実証

第7章 考察、結論と今後の課題

おわりに

参考文献

【論文（報告書）の内容】

1. 研究目的

現在企業M&Aは、戦略手段として世界の各地に普及している。技術獲得型M&Aの場合、買収企業は技術革新の向上と、対象企業の技術の獲得を期待する。

本研究は、合併後の統合度によってイノベーション創出能力に与える影響を明らかにする目的とする。

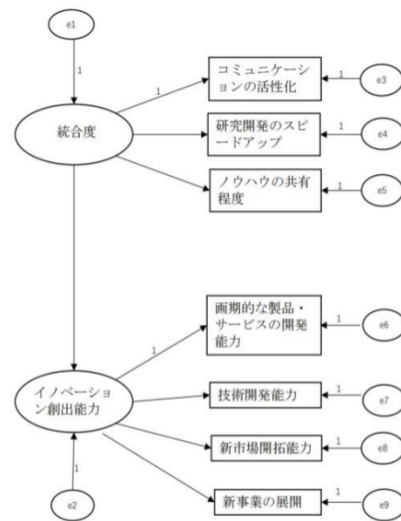
2. 研究方法

本研究では、理論分析と実証分析を組み合わせる。各関連概念に関する文献を整理し、先行研究に基づいて各関連概念を再定義して、仮説を提出する。その後、アンケートを設定する。アンケートのデータをもとに、実証研究を行う。

3. 仮説の提示

本研究では、「企業間で保有資源に高い類似性・低い補完性がある場合、合併後の統合度によってイノベーション創出能力を向上することになる」という仮説1を設定した。「企業間で保有資源に低い類似性・高い補完性がある場合、合併後の統合度によってイノベーション創出能力を向上することになる」という仮説2を設定した。「企業間で保有資源に

高い類似性・高い補完性がある場合、合併後の統合度によってイノベーション創出能力を向上することになる」という仮説3を設定した。仮説を構成する変数は、「類似性」、「補完性」、「統合度」、「イノベーション創出能力」という4つの変数があるが、これらはいずれも直接観測出来ない構成概念である。そこで、これらの構成概念を測定するための観測変数は以下のとおり設定した。「類似性」については、①同種の製品・サービスを開発していること、②共通した顧客、③類似的な外部資源、④研究開発の進捗状況を設定した。「補完性」については、①補完方針、②技術補完方針、③事業補完方針、④自社の技術知識が異なる企業との提携程度を設定した。「統合度」については、①コミュニケーションの活性化、②研究開発のスピードアップ、③ノウハウの共有程度を設定した。「イノベーション創出能力」については、①画期的な製品・サービスの開発能力、②技術開発能力の向上、③新市場開拓能力の向上、④新事業の展開を設定した。



4. 仮説の実証

本論文では、まず、資源の類似性と資源の補完性は因子得点を計算する。そして、得点の0以上と0未満の二群にデータを分け、三つの仮説を実証する。まず観測変数に関する信頼性分析の結果を示す。「資源の類似性」という構成概念の信頼性は0.877、「資源の補完性」は0.717、「統合度」は0.910、「イノベーション創出能力」は0.893であった。

適合度指標名	χ^2/df	AGFI	GFI	CFI	RMSEA
基準値	≥ 0.05	≥ 0.9	≥ 0.9	≥ 0.9	< 0.05
計算結果	0.188	0.656	0.912	0.988	0.046
判定	○	△	○	○	○

モデルの適合度の項目のAGFIは、条件を満たしていないが、ほかの4つの指標で適合度があると判断されているため、一定の適合度を有すると判定することができる。

5. 研究結果

因子得点の結果より、4つのグループを分けて実証する。グループ1では、資源の類似性と資源の補完性が低い場合である。仮説を構築していないが計算した。グループ2では、資源の類似性が高い、資源の補完性が低い場合である。グループ3では、資源の類似性が低い、資源の補完性が高い場合である。グループ4では、資源の類似性と資源の補完性が高い場合である。グループ1では、統合度からイノベーション創出能力への係数は0.31である。グループの2では0.93である。グループ3では0.54である。グループ4では0.72である。そして、各グループの推定値結果によって、グループ2、グループ3では全部有意確率が5%より小さいため、各変数の関係があると判断される。グループ1とグループ4では有意確率が5%より大きいため、帰無仮説を棄却することができないと判断される。しかし、TCL会社の事例研究の結果と合わせて考えると、仮説2は成り立たない。従って、仮説1を支持された。仮説2と仮説3は支持されなかった。

技術革新を実現したいのであれば、まず、両社の資源関連性を考えることが重要である。資源関連性に基づいて、適切な統合度を選択する必要がある。

【主要参考文献】

1. 中村公一(2003)『M&A マネジメントと競争優位』白桃書房.
2. Ahuja, G., Katila, R., (2001), "Technological Acquisitions and the Innovation Performance of Acquiring Firms: Longitudinal Study," Strategic Management Journal, Vol. 22, No. 3, pp. 197-220.